

享保年簡集

特別
14
696
34



特
696
34

玉皇文庫

目錄

一 夢 廼 跡

一 兩 廓 相 撲 故 日
魚里細見及子鳥

一 釜 月 亭 若 菜 評

一 年 德 寶 舩

一 黃 梁 一 炊 談

一 正 道 記



そらで地ハ万物の逆光陰を百代の正客と云
のつと雲一りふと化しと云いつれ、若くは
や去年のほくきんハ南東小多く、今
北の鳥を中身、是きよのゆき、東の
く世のあはは、沈湘の流をみ、
さくをえの水の付を、
のふら、
悟るまひあり、
己る、
東、
ありけち地の



るまゝも風味しとふさゆやうにありと名産物
あたふた抄本結撮られハ石倉館小室みちうり舟と
堀ル清水涌燈と所けハ百信とすによう々牡丹の
弟名傳屋久に傳ふ乃十年以こふよりさく一屋
は伊勢熊所よりけ國へとくふ此より京野原の使
自由なればあふふ留貴と川舟の運送ふる一舟
法玉の名産名室形多うやう々入るう一傳身
日中宵一の太上國とつる小きふ所や一いてやばせ
たういのはとるけうに室成先小傾坪河とまきのく
さふさてハ歌舞流の名うりのみりさうさふさ
みさうとよむと一其店遊里あはまんくおきんせん

中せう中あら國中あか一孝くく目の是うはる
あふくありけ何法屋とくち錦繡の神をむく
酒小きとむれ小信小声とくしりやうやあはれ
おとかくおねとなく昼夜是とやふはちほり
さうはうの尻をおあも法士町人女中おなつ越
うく何先とえさふ人の子の教とくしふへん者一
生のきくくともあうくく一たのくくはまの記と何
のあや一筆まゆふ書付一妻の日の書うくくにさ
くくあハんぬ世の人となくさうの筆言陣やふ
くくを所小遇うくくハ偽とや一アそかいやり控人
遠くハ大平記の偶と近くハも村屋の難とくハせん

他物ふもれくハ國の和厚法中のつくくハ筆名の班
権ありゆく今改正しゆく一序紙く一差此記と名つ
そのあじし

心之えと此初夏日

金城小士

東子規格

是より夏仲の道草

廣山海神明

社内小ありの表をまゝ、偶人言指六石の事書き去
庭中九月十午、取らぬハむ丁ハ東ハ之屋町と南少小
垣と徳山を引籠遣らもかく龍の伝りのやとたよ道
て竊しつかに信を金何幣知とて筆屋あり酒えんくあり系
蒲籠芝飛の在古取ハ人ふれぬやのみ多う、名く
社よりありもんとんヤ少て社屋ハ飯持てやるとすけ
らあこ

勝ハ派也と名をす及鹿丹嵩の産法七段の居合棟とす
又ハ派心とす白う祭のたうに長壽ありとす

楊 是より町とトハ行あり

け橋東服不倍と法傳の法を宗性祀言指のうり元三大作
のりやくまてあるんれ建場ありけさハ果ハ過か是あり
て渡車とにうく橋より下東ある例ハいらく言物あり
うせう金多し一嵐やうのほろきぬと法の子さう細物や
又多し多てさる程あり源氏うさやう金むらぶこく娘衆ハ
さうく指程の物り於お思ん若宮家さうく九ハ六十才老
女床机さうく宿の妙業さうく娘衆さうん

若宮八幡宮

社地不笠屋小吟と云言指あり小笠として名女も歌集被
言指とあり

つかにさや中や要徳屋とくんとん酒者あり兼て今
貸度屋のさやをみ いらはや森三の流流志のほこの風流を
指の并あり一屋をさうくい中ら一志の申宿ち行汁赤味宿
のてんうくまてめさかん若宮やううゆきのうさうり焼若殿
屋而徳屋のおやみせつうあうやう古籠卒の律さう
焼酒光酒うはやうい此也の風俗よめやむうく頼之相堂
小笠とつくせ一若宮一亭あり

ふみ人さうん

此五屋 志ららるんれ新のさうとくぬふうさのいやさふ

け家のみ分の及字程と傳 丁色さう

清妙屋 酒めさやうい 如泉屋、茶梅酒

松平の口系 大丸の多紙院 松平の老人 二あるを酒とく
菓より居ハ 幾世候 毎春といふハ 中より名

多小布袋屋とくハ 宛ハ 中より名 一は 松平の無当を
流せとくハ 若ありあるハ 官古流 一流之 女房の名は
衣門とくハ 信濃屋とけ 女房とくハ 古よりいふ
とくハ け家小 松平 伊多 松平 とくハ 古流の事と 欠
落しては はずいふ

信濃より 今ハ 又松平の 松平 松平
松平に 松平とくハ 松平 松平
松平の 酒とくハ 松平の 松平 松平 松平
松平の 酒とくハ 松平の 松平 松平 松平

あ例 松平の 名 松平の 松平の 松平の 松平の
赤福候 松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の

松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の

六 次

寺内ハ 松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の
松平の 松平の 松平の 松平の

鏡刺せしる尺巾勅願王

是より下ハ菊ヤ丁子屋、うんじん書き切

七寺

境内小笠原とありて入道ありては群集大日如来乃
きりの転脚しりては

堂法在河内系 寺名 料理茶屋

石井

けさな代鏡きくさんあり家とよむはあて中の時
はらうとやてのーきーやあん

石井町 けさより西少くは道あり

東近寺

境内個人を病ありふへ横町より留まると一のた

徳屋町

△オとら、丹とやのあやの町 徳名とん

うはの山とありては細道とよれは中
うちあり申もむや、竹まき、あなう、み線あり
この軒の法名ありは書写のむちや、或、筆
うりかんとの花ハ小人の系、ふ伊ありふ
花と我のまてと名を記し、印意ありてあや
ふくりりあふあやう所の名表ありて
風味向ふとくやして安徳城の茶店三派可駕
花の看板らんじんやのふとせうかぶとてあすの麻

中

と
な
り
し
は
た
し
に
彼
と
江
尾
の
海
物
と
し
て
色
澤
が
ん
し
し

富士見原之圖

此所小林ノ南ニテケル

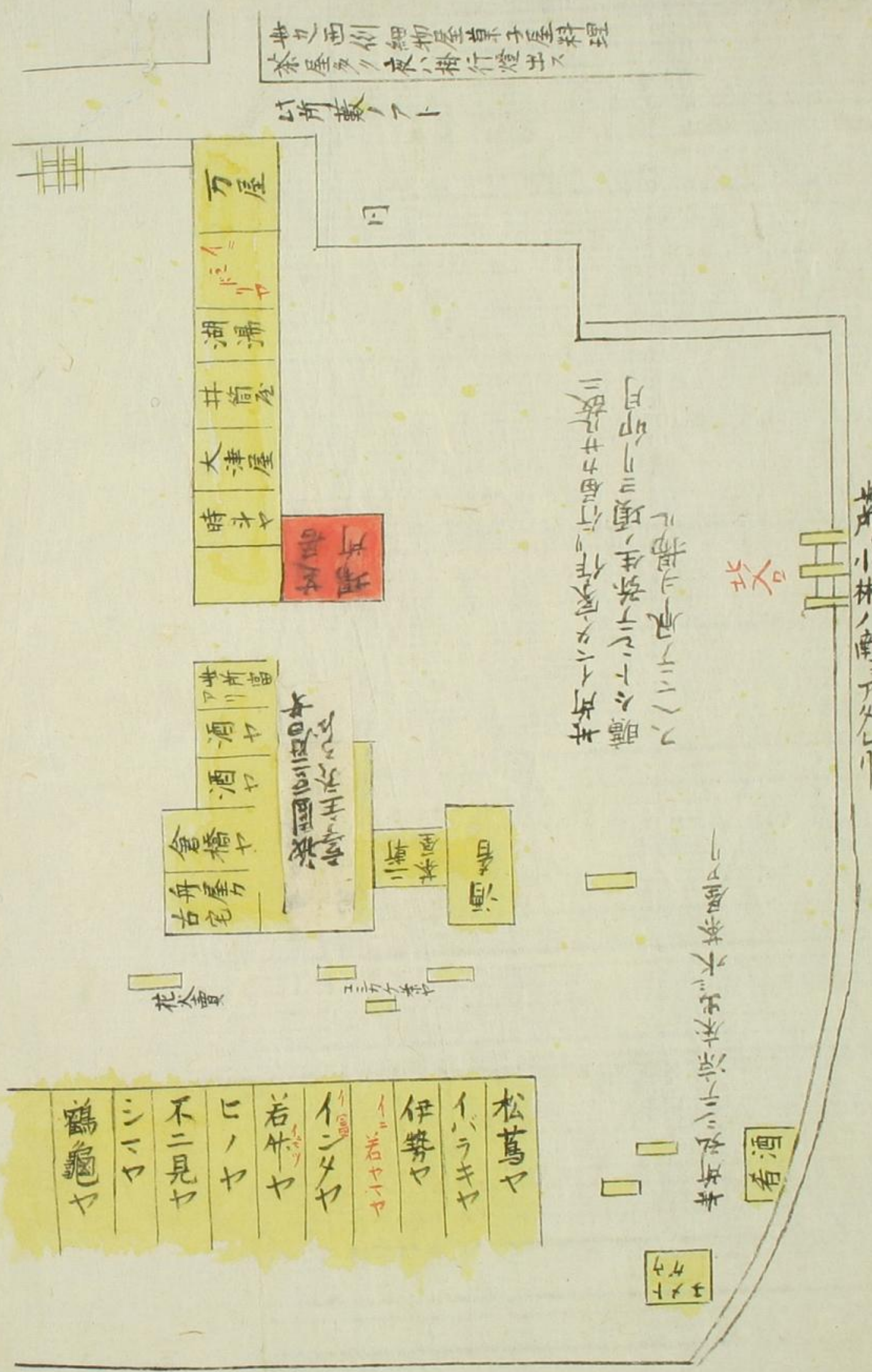
火

此所ニテ生テ行クニテ
此所ニテ行クニテ
此所ニテ行クニテ

此所ニテ行クニテ

有酒

44
125



此所西側細柳屋草子屋料理
茶屋多ク夜ハ掛行燈出ス

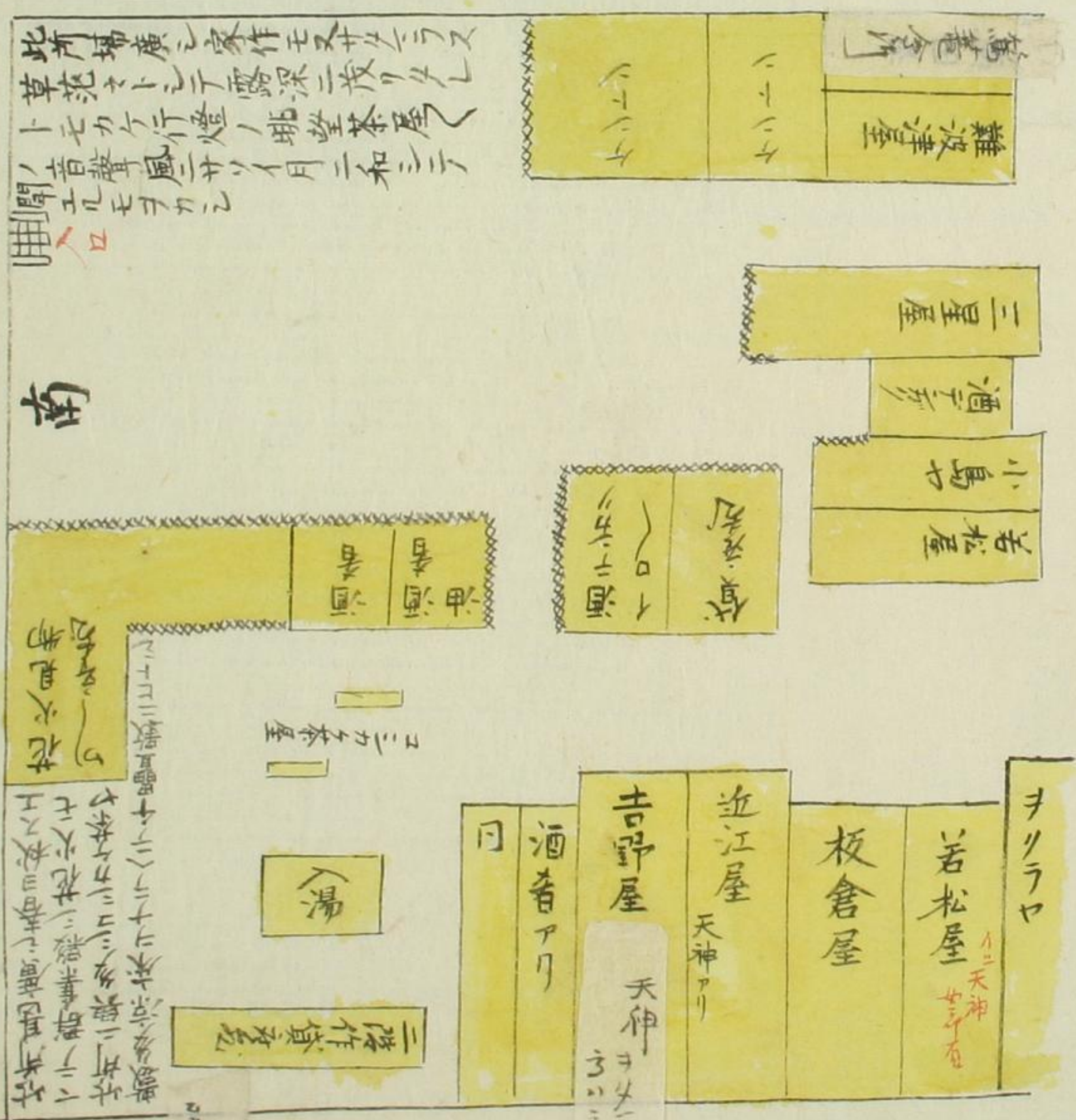
此所敷ノアト

- 酒香
- ニカラ
- 大福ヤ
- ナキリヤ
- 酒香
- ワカ
- 月

此所大木ノ

橋町夜ヨリ東へ灰取所へ行當
少前ヨリ東へ入テ余リ行テ此
富士見原西ノ木カニ至ル

通



此所掃廣之家作モ又ナク
草花ニトシテ露深ニ茂リケル
トモカケ行燈ノ眺望茶屋ノ
音聲風ニサソイ月ニ和ニ
エルモカカニ

南

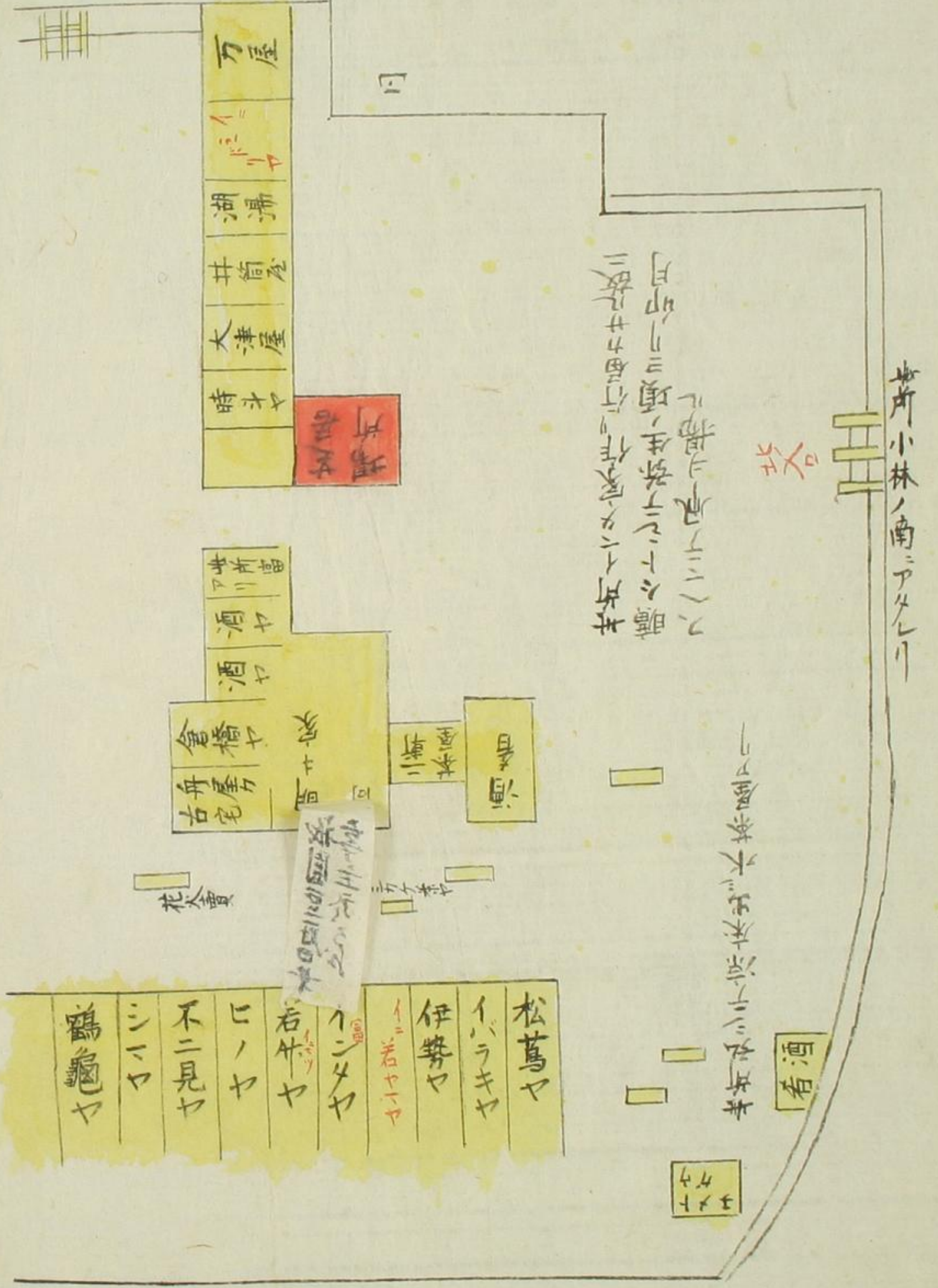
花
火
思
物

此所ニテ行クニテ
此所ニテ行クニテ
此所ニテ行クニテ

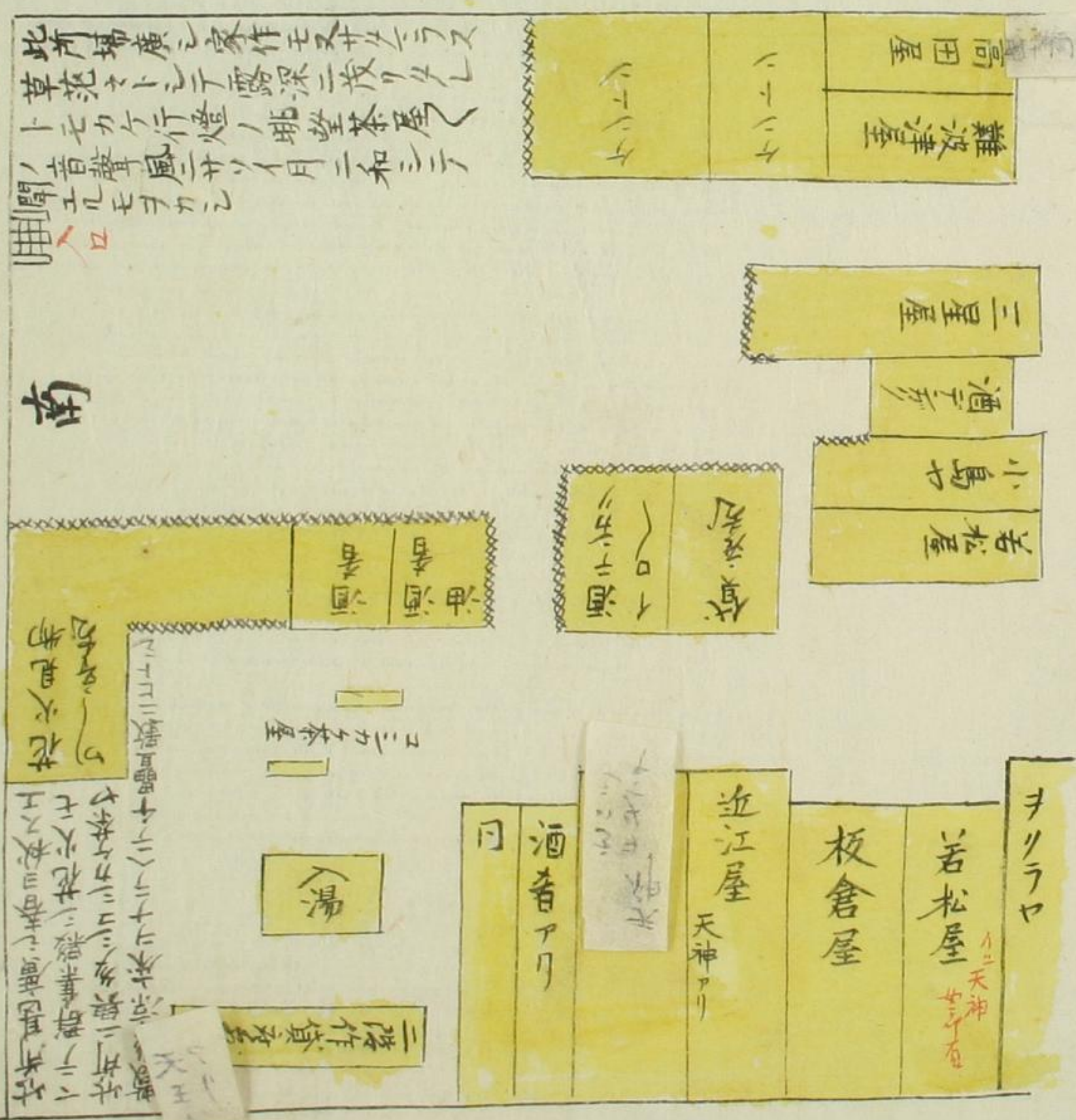
天王
31

此の西側細柳屋菓子屋料理
茶屋多ク夜八時行燈出ス

此所敷ノアト



橋町哀ヨリ東へ灰取所へ行當
少前ヨリ東へ八丁余り行テ此
富士見原西ノ木カニ至ル



此所敷廣之家作モ又サケラス
草花ニトシテ露深ニ茂リケル
トモカケ行燈ノ眺望茶屋ノ
音聲風ニサソイ月ニ和ミテ
ニルモヨカニ

南

煙

すてし楽柳不極可く出れハ安女の真意と云ふありの大
江院ハ数世傳ふ下れた存極ト安人やさた小足様アモ
二三新泉水やの好門と云ふ縁の作罷あり橋屋ハ安女と
うらこト亦危ハ酒と云ふとありなよ

大 本 戸

是より上橋アあ例ハ澤舎と云うて院人のたつこらうく
孫ハ若徳念書厄の好女ありと云ふハやまやうまを
依也危信おんらんらんハ云ふとありと云ふハあうと云
ハ桑橋屋の九と云ふと云ふ

七 田 倉

塔角ハ常使アと云ふもまりの云はあり室おに役云子

大の権越あま、中より久菊、物う七六人あまら乃
とこ桃籠ハ射すいさきう

石四角ハ南角ありけ橋町を院てあゆは一切りのハ廊
東の城アハ到り又ハ水のホアハ條正南ハ法次やうん
うんまんちういさこ條續く柳家や柳山邸や舞
鶴百足危ハあんとんあーのあさ人三郎茶酒と云う
またのい

大御堂 法次と云ふと云ふ世も志つまりて法次と云うやく
稲荷神社

門の中ハ稲荷や酒や系祇園豆腐らんらん小料理
尤ハ沼田湯河う島と云ふ伝承と云ふ葉と云ふ妻屋社也

考や源を承浄海邊其れ金天井京こころの太鼓橋つきの
多りきれあり素門の源より沿ひの榮や一丁は其人の榮
而して也あま布袋や向大おんあり玉やみねは橋を
あか

大泉

田中の地をどういふかの牛より堀おせしやけま
安んじて住居の人ありともてく程に池やを築くよその
ころを

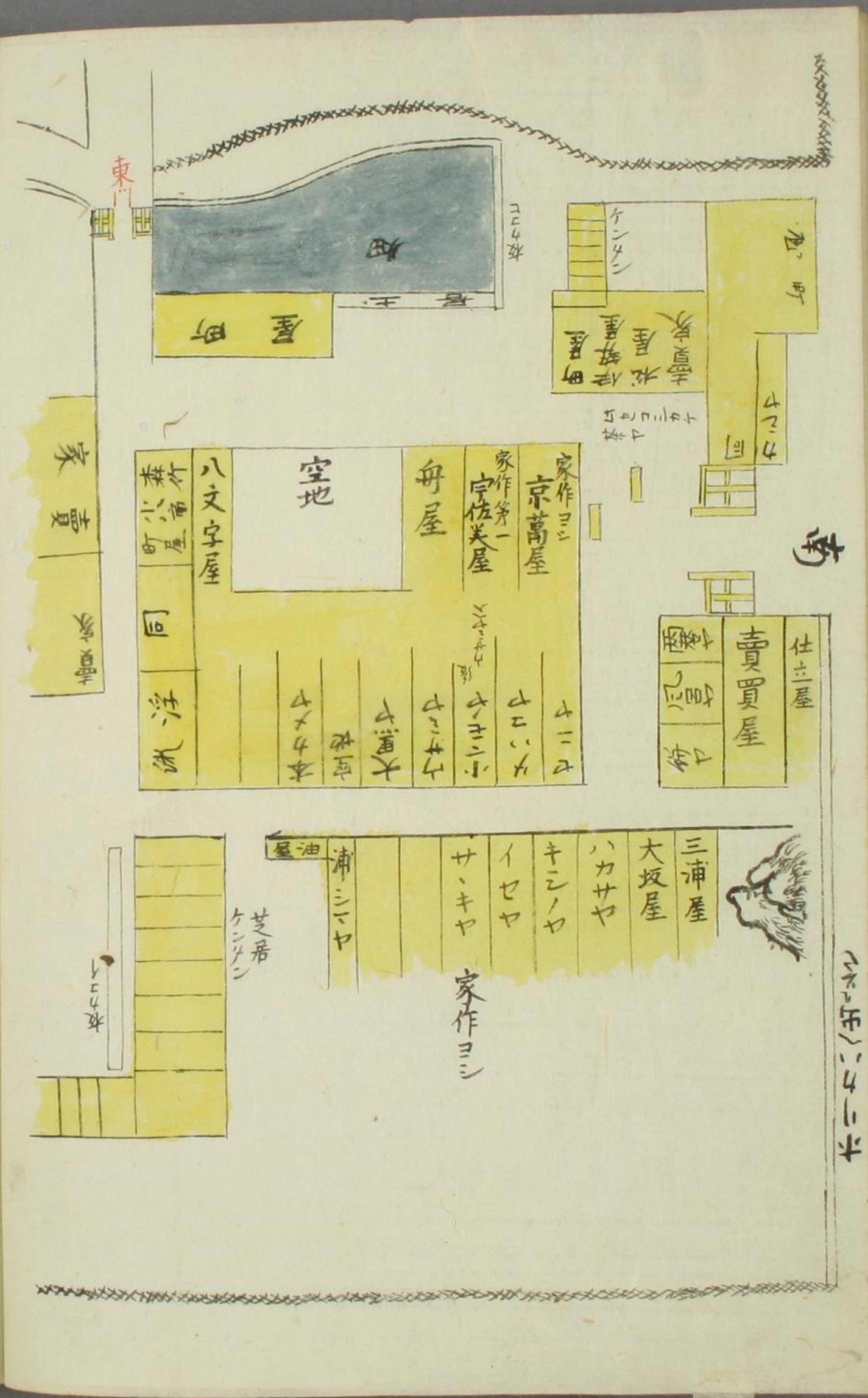
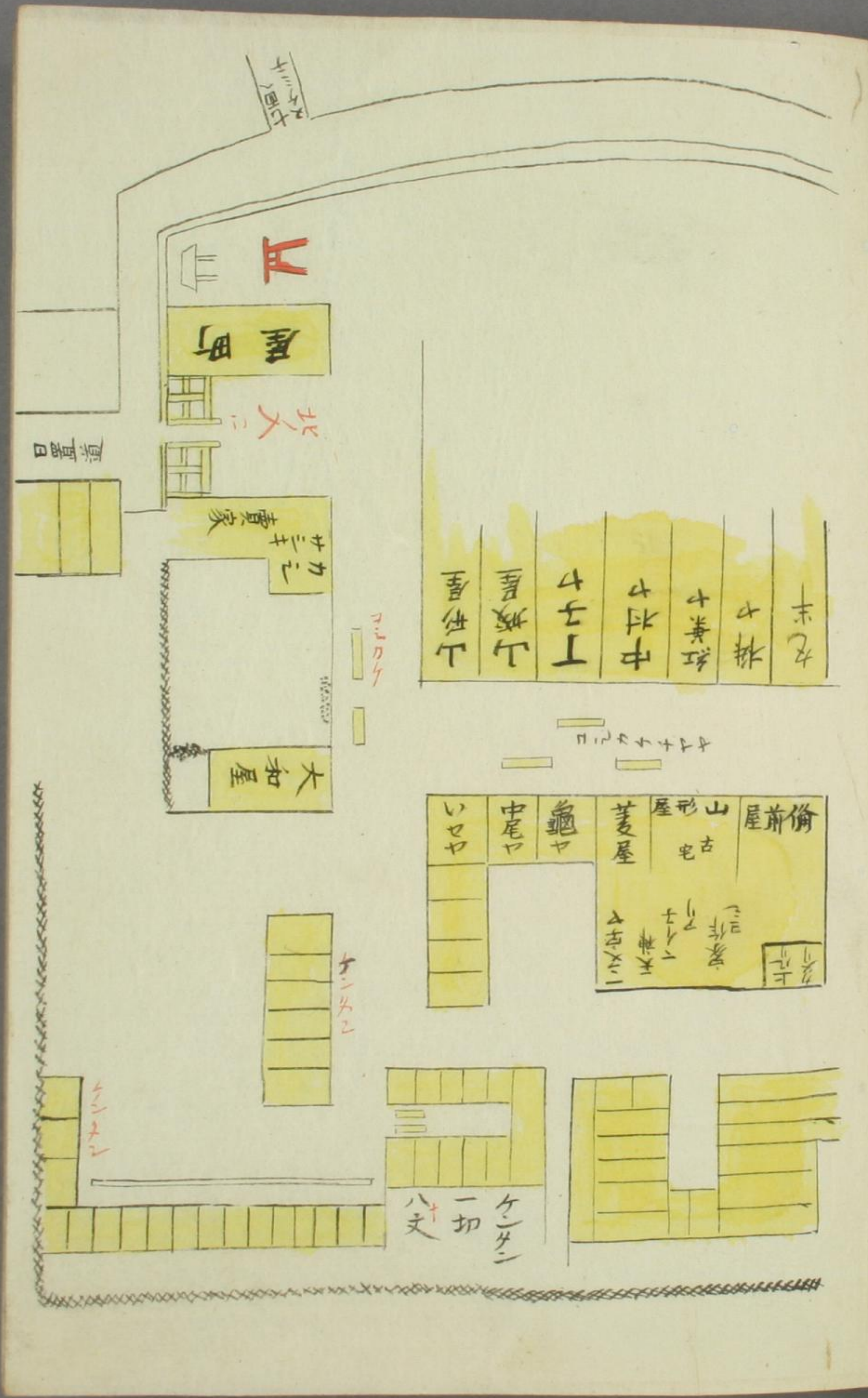
むらむらぬく田りむらむらぬ
と知いしけまの泉はけま大角の初まありま
と旅いおきれは海に利せておぬるころを
町山車の後ハち目警官の時おあり
指ひ給てむらむらぬ

とあはの包を仰りむらむらぬの程おしく旅を家
ころはまらぬ

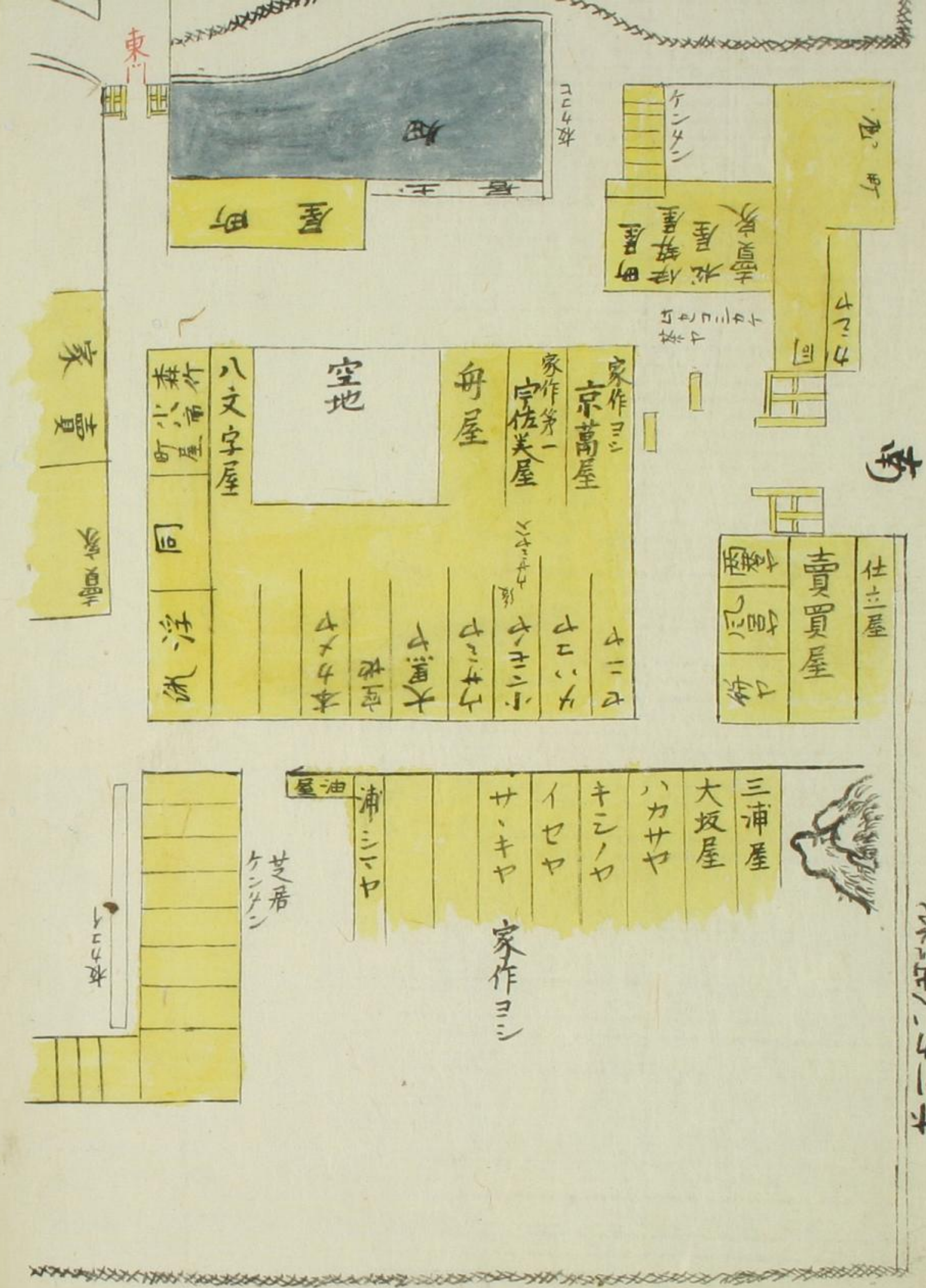
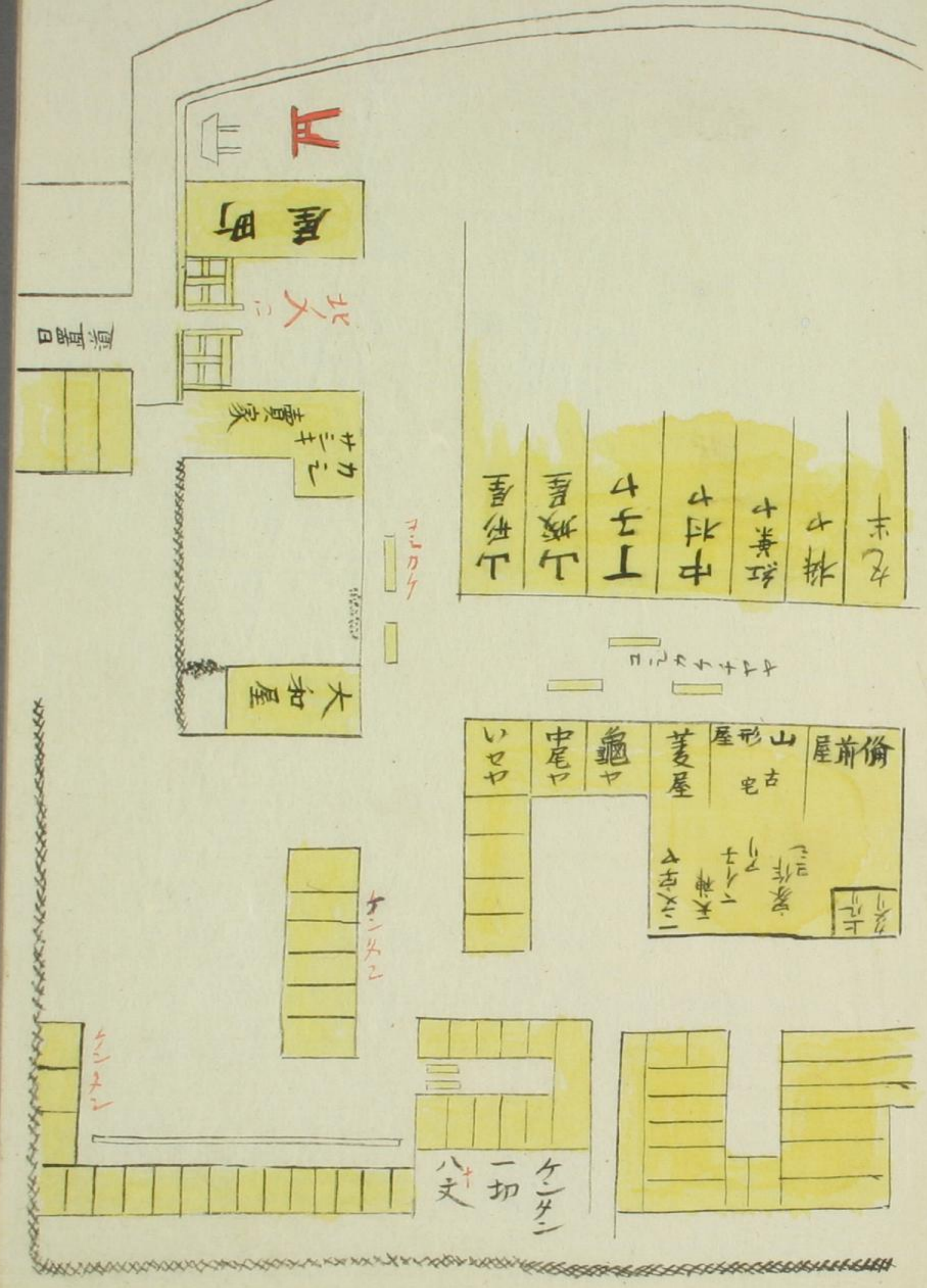
うは町の入口より波舟を大坂 泉を末度ハ海寄り
茶をんくお大の候を大將とて 非せんちくと沙を
かきりあまや草をを西房よりく解の解り
踊りたの程あまははを仰りてまけり是のセウ
先とかきりむらむらぬの程ありあまの程をまの
くやけりむらむらぬ十人六人あり心のなまら或は物の
つぎんの中く珍ひの太宰をほむむらむらぬ
あまは白居のちやちんむらむらぬのとり大母
向のわらむ人の心くむらむらぬを付てのそま二人あり
くやとあまむらむらぬの程いそ中はなれちやちんを
はせそあつふあまむらむらぬの程あり野あふ國を

椽のト二階のなほりし二拳子頂の意引文さハ是の
やうかうとうう新法所作をいふはけハ階子明て此
しや揚りむといふらすおトの只此そ尾を下るる
のほやあうままんきてふまかいやうく何心かく程ふ
いやかあけしむらちやう付客やう角うとれぬよ

あし路の圖



北ノノノノノ



Handwritten note on a small piece of paper at the bottom right of the notebook, possibly a date or reference number.

廊中六三を風を五五習御物菓子府を在居あり
自由をつくして家持の作山あり中一野一山形結
接ありはう御菓子とくぬ丸尾浦定のあるよの尾を
宮一伊豆を侍ありと町代とせり二島の町と終て尾根
み結ひけりりま白りんむろりありやあしやと一人は
そのの女房あきあれあしとの亭とぬり名二之乃
あしと家のあしと踊ハハれまありとせりさささ
て曰たささごうくまきさささや角伊のあきと一
あしと酒のつらぬいんこさささ曰それけく中
一初ねはけ中の人殺一伊あし終後とあしと
ささり珠ささささささささささの轡轡ささ
ささりのあささささささささささささささ
と名回路の何のあささささささささささ

香トハ京ノ事ニ終極向一 向ハ穀ヤそ酒者料
理とゆきさささ八本意和々産完あり
小の本戸外大を危くんとん中村危の酒池田汁
畫一もささささささささささささささ
のうささ酒ありささささささ
行書尾西川の日主信向一さささ入江う一山崎
大正の空表面と尺原一の産をささささ
さささ人さささささ一とせけ下又神産はと酒り
ささささささささささ月産信信さささ
さささやあさささささささ

芝居場所

黄金薬師

廣小路神明

大兼院

若宮八幡

七寺境内

大須真福寺

中下新道

清壽院

赤坂神明

館屋町

廣井八幡

不二見原

西小路

稻荷社地

熱田

来迎寺

七面境内

大泉寺

大泉寺裏

西小路北陽

遊女町

西小路上品トス

天神 三十五女

平子 十五女

都^{舟屋}ハ 二十女

不二見原ラ次トス

天神 三十五女

平子 十五女

堀川 葛町

門前所

橋町

同裏

間短^{夜半遇} 二女

掛所前

千ノヒラ

異本ニツクマク原^{新馬場}

此外町々處々一二軒ツリ有之

右享保十七子年遊里始元文元辰年橋町同裏手代町
邊ニ茶屋引元文四年停止

享保十七ヨリ元文四マテ凡八年ノ向ナリ

文化十二年乙亥マテ八十四年ニナル

別一室を近き女中の所給の女を妻とするに
 あそび下りみり東の田中を記すもみ郭子名所と
 惜む又の日は夕々み蛙のあふみ竹の婀娜として
 風をあいにくむ大流電の舞は心小やうふり
 そらく肉院ハ杜風よりりて東室の床子尾ね
 うもくん傍うらや臨の吉比下りして一室のあは
 僧子流進くい心細く冬栢の眉牙は志む親のいさめ
 こと家と来と差あて雲金浪ハ堀ハ鬪ヤ茶釜ハ
 ほうぬくことかきとくことありあつ後の人を
 これと後の人をとありれみくされを澄みらん又後
 此人として後の人とありれみくさるごと

鷹心あふ、窺のあふりり〜次

干時室唇十唐衣の巾中於上院筆と漏由室堂
 の室下は橋。

懐古

姑射城南新開地、雙閣連堯珠簾深、娼家
 揚柳翠色滿、翠色艶く望檻前、檻前嬌身
 好音發、簾幌戲蝶窺瓊筵、卷女紅粉共皎
 皎、玉顏娥媚自後、此時羨女迎客喜、此

日女婦杞琴傳、清歌紉扇翳花影、花香羽
 觴縣、翻迴、花月添粧、明鏡裏、金橙奪暉錦
 繡、向、勸、醉、能、逢、鴛、鴦、興、盡、歡、共、酌、鸚、鵒、林、
 襦、帶、易、解、為、君、會、歌、舞、欲、成、為、君、催、遊、遊
 至此、應、極、樂、交、歡、難、罄、起、哀、情、對、客、羞、女
 各、相、去、娼、臺、朱、簾、田、園、成、霜、露、變、化、三十
 歲、荒、園、草、芥、幾、回、生、昔、時、明、月、蓬、場、殘、唯
 今、唯、在、松、柏、平、寂、空、流、西、川、水、寥、清
 動、南、浦、聲

昔宜曆十龍集上章執除長月嘉辰

古井任士遊融堂能天齋



尾別若女危 為小姑首所愛吉元系
水至所飲為可樂也

艷 覓 友于真司

字子傳松女年
甲寅六月廿九日
柳星香堂

西小姑集

一女字子傳
長安真司

多 是 小 猪 小 人

猪 木 屋

小 人

人 人 人 人

大 木 屋

人 人 人 人

子 木 屋

人 人 人 人

人 人

人 人 人 人

木 屋 木 屋

猪 人 人 人 人

木 屋

人 人 人 人

木 屋 木 屋

人 人 人 人

木 屋

人 人 人 人

大 木 屋

人 人 人 人

木 屋 木 屋

ノ鍵放八十八新

子たて武る控て

所代

伊勢屋林系
梅前屋小三子

葛川右

梅 一とらん

八兵衛

了屋法之右
云南 梅屋沖

房 一とらん 政中

高入

高入 百屋の徳門
あまの金取

房 一とらん せき

山房屋市右
かき せき

房 一とらん 政中 一とらん せき 政中

物世 一とらん

高入

百屋金右
道屋金右

東 一とらん

花世

東屋市右
まの屋戸右
西屋市右

一とらん

少 一とらん

山房屋市右

一とらん

徳屋市右

一とらん

山房屋市右

山房

法華 佛心 法見 法信 佛身 九座八節心

三身如書三力 折座如書力

三身如書三力 折座如書力

折座如書力 折座如書力 折座如書力 折座如書力

折座如書力 折座如書力 折座如書力 折座如書力

折座如書力 折座如書力 折座如書力 折座如書力

折座如書力 折座如書力 折座如書力 折座如書力

折座如書力 折座如書力 折座如書力 折座如書力

小寺 芳上 花信 部 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

後 芳上 芳上 芳上

花 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

小寺 芳上 芳上 芳上

芳上 芳上 芳上 芳上

兩廓相撲教日

時習の侍のぬいふ事ありて互廓の振を教むるなり
も當りて見ふに花をよ人のいしをかし
以筆帽をさう樽を置てしを於ては
一舟に酒をわさる大に酒を飲るこころをせし
起し角前髪の小者身切を備ふるなり
是よりこころを大に酒を飲るこころをせし
とては和出浮海舟中なるは若くは
千使の同遊し大に酒を飲るこころをせし



と大園にこれむもふぶらやを能くそ病もさす母形を
大神名行と只今使役の用なる木如き方等の
せられたかの事やいふ者細説を知す事古民ある事
方辻井並行と少中後信の事やいふ者神よ深し人
あるは只今長湯河常五るとす少島下と云くても園道
深し事しふ事なる侍使居し振指の勝を押し柄と
嚙て非却る神並辻井なる行形は事ある事
大形なるもの使二寸間ころりたる事云い舟し
変名真しとせしめられの事ある事向られ少島
ころり少中後信の事とし只今常五るとす少島仕人の
行形は事ある事心若く少島紙下し我々の病

形は何事の病信の事えかしことばなる事人
細説ころり事判り神並二間行の信はことばなる事
細説常五ると行は井なる事成りし事なる事
多かちん信の信を只大神辻井なる事先早味
事信もさすは同州中事振指勝或は振指をさす
はる事信の判り信の事と一なる事信の救はたぬ
信の事なる事これなる事あれし事なる事なる事
ことばなる事後信の事止む事なる事なる事なる事
事なる事なる事老の信なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事
事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事

寺に祈り孝を尽すを保我り力とす止まらん佛の
 心を佛にあらはせりる大圓の親なるはと大教の心
 取れはるる珊瑚樹の百萬遍の若くすと建立し
 ちやんとし如く大圓の親なるはと持おれりるは
 してはるる神の心を石後の山は丘なるは
 中大龍傲者としてしるる成を是も先んば
 又わく小鏡の如くの名も水月如來の心なるは
 此又を止し佛の心なるは佛所し真善寺に集り
 なるは宗立の事なるは又佛の
 明日何處も少くは中なるは少くは少くは
 此右佛の所真善寺に右山若くは入り

少くは少くは少くは少くは少くは

壬 丑 月

辻井又平
大神孫也

自旭久公命	并於金口	世 孫十命
川傍八重	淡 伊美	馬六半三命
安達長重	和名多物	昔侍伊美
花菜之吉	目大毒	乙助公命
我尾伊美	井所公命	佐佐木命
敷 長尾	伊支路	玉洞津言
只下市丸	水尾之吉	吉枯公命
油 治平	尾 清長	奥田守命

只此... 山... 何... 大... 小... 伊... 中... 海...

好... 山... 伊... 中... 海... 伊... 中... 海...

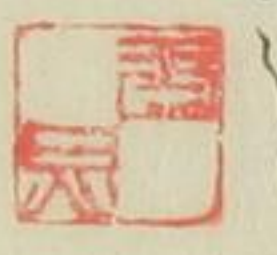
しつ 評判もあつてあつて **本** コト のまゝに **本** コト をいふ
の條の國をいふ **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す
枕の物に付のるふ **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す
日乃 孫 ぬす 是 **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す **本** コト 目す



Handwritten text in cursive style, likely a poem or a letter, consisting of several vertical columns of characters.

乙未
三月

以之類
云々



癸丑年

金月亭
義菜
八詠

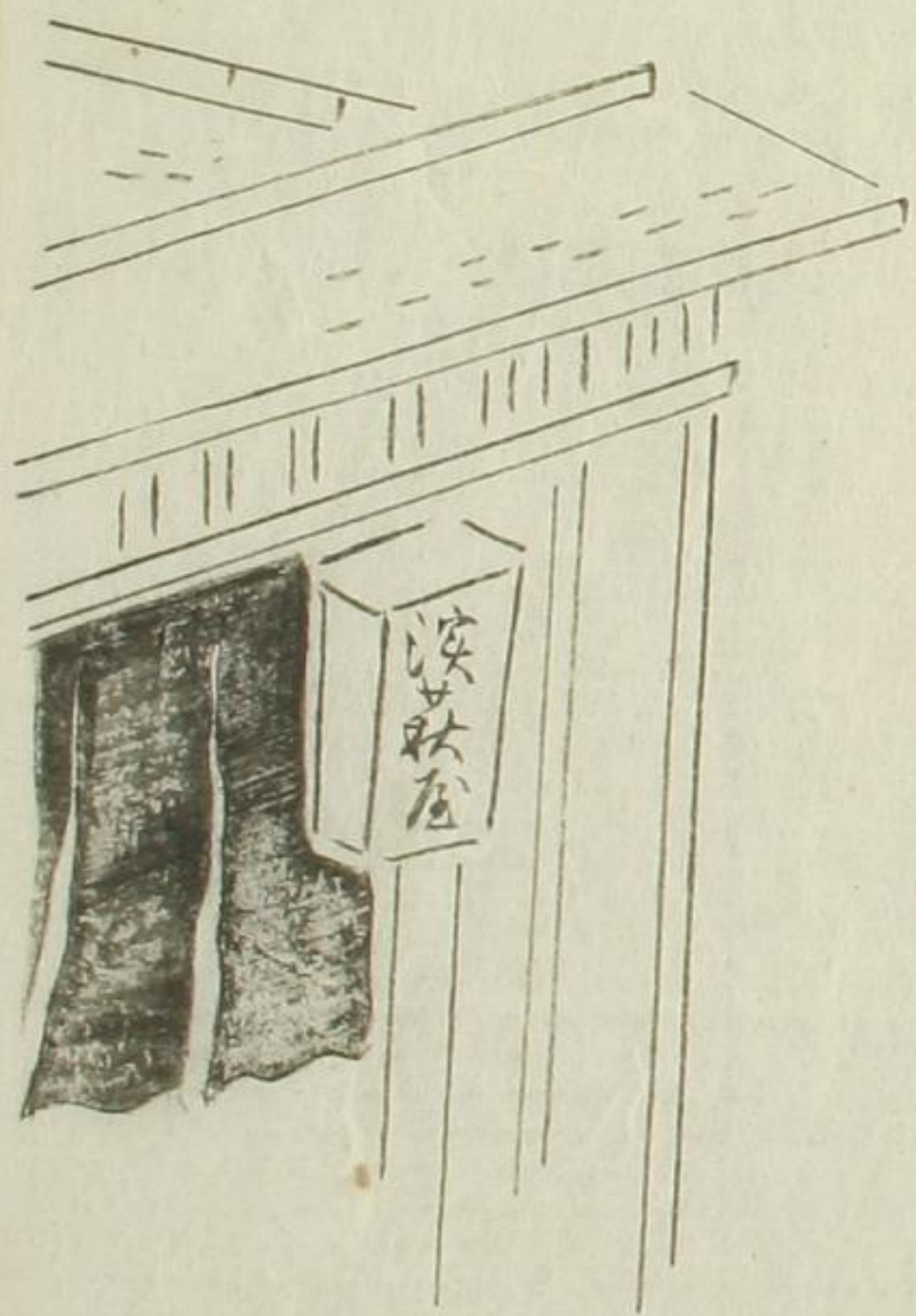
冬月日記

亭に坐りて月を眺むるに
如き人の見物けり。麻は探出され
茶室をとりておれ。お茶の家を
中へ移りておれ。お茶の家を
もと茶室の用仏をへりておれ
その夜は良夜なり
冬月日記

西小路落丁

矢地

くさし
おれ
おれ
おれ



堤川帰帆



水鏡の

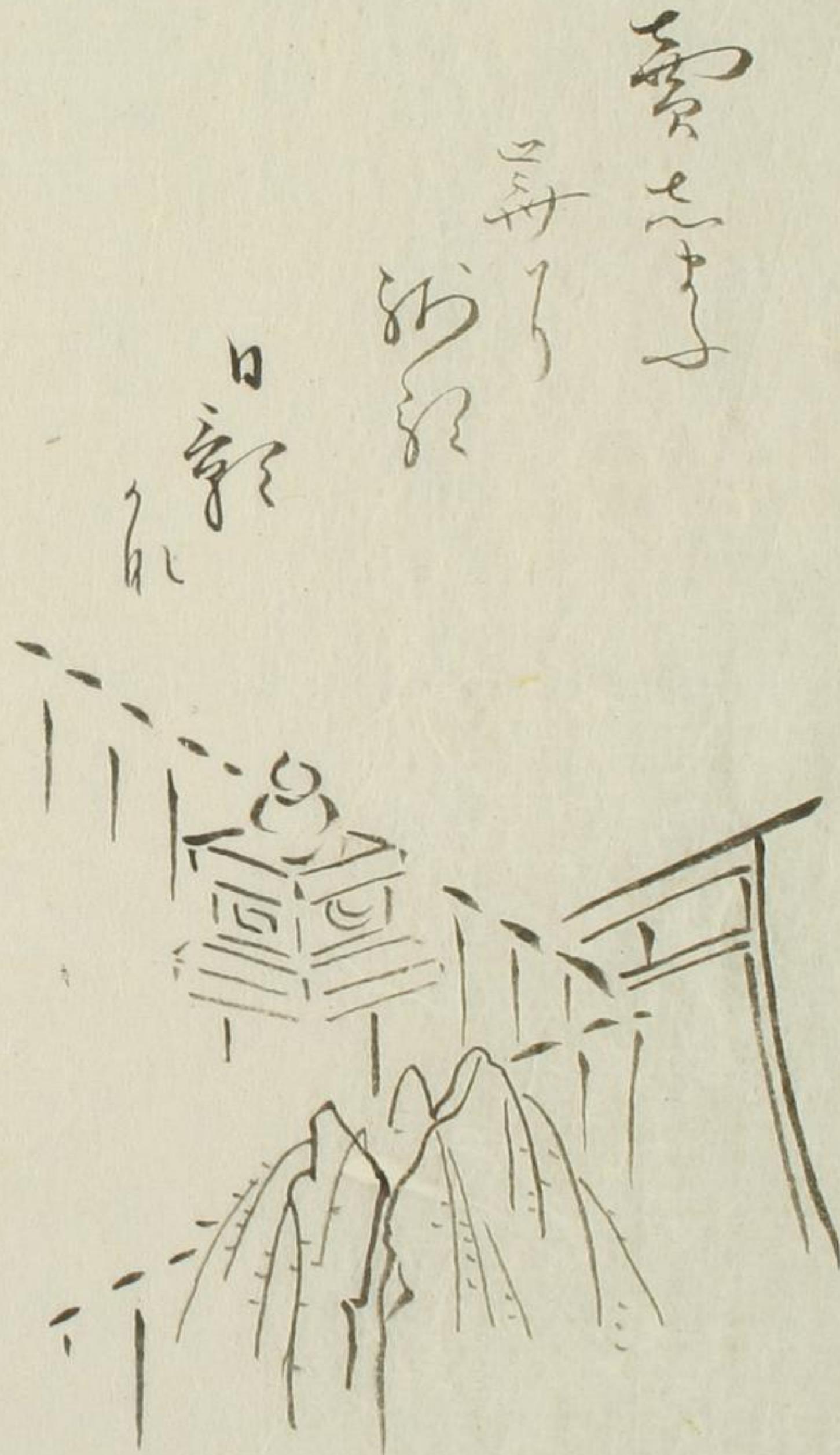
舟

は

あ

稲荷夕照

采布



稲

荷

夕

照

采



晴
東
の
風

下
の
山

山
乃
下

乃
下

乃
下

乃
下

如
海
の
波
の
響



洞
の
深
に
入
る
の

洞
の
深
に
入
る

洞
の
深

富士見原五月

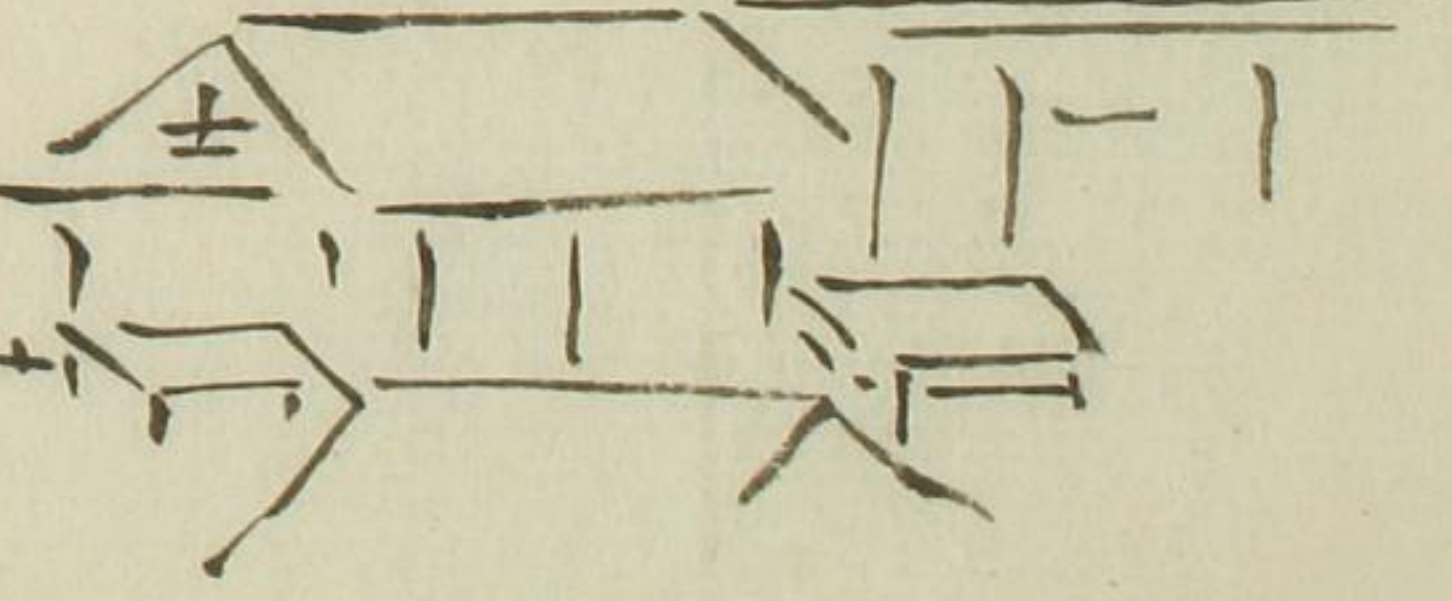
富士見原

餅橋

餅橋

餅橋

餅橋



月見

月見原の月見

月見

月見原の月見

月見原の月見

月見原の月見

月見原の月見

月見原の月見

う
 家^らの^らま^らの^ら後^らの^らて
 びー^らの^らま^らの^らて
 二^らの^らま^らの^らて
 家^らの^らま^らの^らて
 也^らの^らま^らの^らて
 上^らの^らま^らの^らて

追か

後^らの^らま^らの^らて
 か^らの^らま^らの^らて
 喜^らの^らま^らの^らて
 後^らの^らま^らの^らて
 家^らの^らま^らの^らて
 冬^らの^らま^らの^らて

詩中

嘆

玉

夫

杉

志

花火燈したる粉吸つて蘇州の泉布
芝居のとき向く美談の母家 和好
根有付心略七角をむかひつき 海東
舞の江津製とき久神の香 白頭
中の一寺業師のりも舞は夜 風子



年経宝の

国由いふ上下福を法斬とあふ故よきもの
わく甘泉の川と木の葉の一本の青葉を味入
諸病との通れなるを治すを治すを治すを治す
極多とあふみまのさしあふみあふみあふみあ
あふみあふみあふみあふみあふみあふみあ
醍醐と井のわき風とるる果とるる黄龍
と水押と接ひさるるも茶細とるるも茶細とる
りしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
味しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり



ものぞし言ふもいふもなやむとて言ふは
此所の事なるに
権とて言ふは
伯也とあせり
大若徳乃の
位そのそ
紙もたるん
後百の口
一折一帖
のた
あ
久
時

十位とて言ふは
此所の事なるに
権とて言ふは
伯也とあせり
大若徳乃の
位そのそ
紙もたるん
後百の口
一折一帖
のた
あ
久
時

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small mark resembling a comma or a short stroke. The characters are dense and fill most of the page. There are some larger characters that stand out, possibly indicating a change in topic or a specific name. The ink is dark and the paper shows some signs of age and wear.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. It begins with a small mark resembling a comma or a short stroke. The characters are dense and fill most of the page. There are some larger characters that stand out, possibly indicating a change in topic or a specific name. The ink is dark and the paper shows some signs of age and wear.

たまたまの事なれば先づ^{先づ}養生の^{養生}に心を掛ける事なり
と云ふ事なれば^{養生}の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり
養生の^{養生}に心を掛ける事なり

他者
雪貴



二月廿四日 後... 波... 龍...
 二月廿七日 定... 山... 龍...
 二月廿八日 於... 山... 龍...
 二月廿九日 山... 龍...

東北 十... 新...
 東北 十... 新...
 東北 十... 新...

東北 十... 新...
 東北 十... 新...
 東北 十... 新...

三月十二日 寧... 山...
 三月廿五日 揚... 山...
 山... 山...
 忠... 又... 市...

三月廿七日 寧... 山...
 三月廿八日 揚... 山...
 三月廿九日 山... 山...
 三月三十日 山... 山...

三月廿七日 寧... 山...
 三月廿八日 揚... 山...
 三月廿九日 山... 山...
 三月三十日 山... 山...

三月廿七日 寧... 山...
 三月廿八日 揚... 山...
 三月廿九日 山... 山...
 三月三十日 山... 山...

七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記

七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記

七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記
七月二十日 東京 山崎 船中 記

製万平 (全由牛草屋十九号)

柳新近不修何主使海抄の女を家枚控別松女枚

抄の中

一 原由の事有りの事別松を助教年人位

一 ありし所の事有りの事別松を助教年人位

一 古原の事有りの事別松を助教年人位

一 袋前金草屋の事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 赤赤の事有りの事別松を助教年人位

一 ありし所の事有りの事別松を助教年人位

一 袋前金草屋の事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 赤赤の事有りの事別松を助教年人位

製万平

一 芝指の事有りの事別松を助教年人位

一 出自由の事有りの事別松を助教年人位

一 着文の事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

製万平

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

一 有りの事有りの事別松を助教年人位

正道記

全

玉昆先生

此黃梁一炊談
玩書八稿
子岩問氏
野田屋
借得元寫
于竹財治
六年大陽曆五月廿四日
續學合旨
於玉昆寫畢

日
慈

風
樹



本のまゝ直正理よりなすべし
道真の者の衣被も仁の字は相
ひまらふは若其の二字を
とらん終つ何方もわら
劫年ありま

和漢七人とも武勇雄偉
限をいふまに功業殊に
元代に流るるもの若
榮譽なきと云ふ人
東賜宮女之の實化の
心と改められし
く罪をいふ

孫の後の山若の源
仍と法鏡せし
少天の政務武
少天居て舟山に改
仁者節か
四改の中より
一旦あやま
外余の
るもの
國府大
形然

しつかりに熟讀致すもの上其の心を正しく可成
政道又則ち其の心を正しく可成致すもの上其の心を正しく可成
致すもの上其の心を正しく可成致すもの上其の心を正しく可成

大田秀直其の
なることをいふは世の人
おのれたることをいふは世の人
おのれたることをいふは世の人

おのれたることをいふは世の人

右正道記

神皇正統記終元二十五年三月
廿二日原書中下川合の
藏書十九卷
右大田氏の
在教連中
風ニテ上ナリ
妙ナリ
柱ノ建理
盛心也
多クヤリシカ
再誌必書

温智政要

小舟宗室



袁題ハ正道記ト号スレド
温智政要ナリ

續學舎文庫



